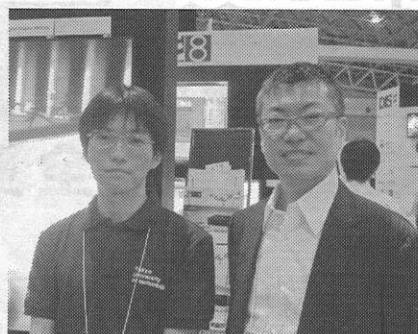


# 新時代の 大型映像ビジネス

61

ひときわ大きなブースを構えていたが、業界で20年以上の実績を誇るスウェーデンのKlocktornet AB社が提供する「デジタルサイネージソフトウエア「DISE」を使ったソリューションだ。日本国内でデジタルサイネージ用のソフトウエアと言えば、米スカラ社が提供する製品の導入事例が多い。また各ディスプレイメーカーが提供するソフトウエアも普及が進んでいる。DISEは、アジアDISEの一員であるファン・ファクトリー社(東京都八王子市、大平富美子CEO)が約3年前から国内総代理店として展開中だ。

DISEの販売は、地域ごとにカンパニー(DISE北欧、DISE中東・アフリカ、DISE英国、DISEアジア)があり、世界40カ国以上で取り扱っている。大平氏は「国内ではこれまで本格的に拡販を図る。DISEは、特に多画面によるマルチディスプレーの演出で世界トップレベルにあると言つて過言ではない。(所在地が)同じ八王子市内といふ縁もあり、東京工科大学とのコラボにより産学連携の取り組みも3年前に開始した。また多くのディスプレイメーカーなどの協力を得て、今年の展示会では大きなブースだ。



東京工科大学講師の吉岡氏(左)とチームリーダーの山田氏

● 学生自らコンテナツを開発

## マルチ画面の演出で効果發揮

その中で筆者が注目したのは、東京工科大学との産学連携のソリューションだ。東京工科大学メディア学部は、国内の大學生の指導にあたっている東京工科大学メディア学部講師の吉岡英樹氏は、「新しい産業の育成立場から考え自分たちが分たちが使ってみたい」としてデジタルサイネ

## DSJ2013で活用事例を紹介 産学連携での取り組みも展開

DSJ2013の展示会場で、DISEを使ったタイル型液晶ディスプレーの表示例(NECDSが展示)と、DISEを使い表示するNECDSの大型9面液晶マルチビジョン。

## Dサイネージ用ソフト「DISE」

DSJ2013の展示会場で、DISEを使ったタイル型液晶ディスプレーの表示例(NECDSが展示)と、DISEを使い表示するNECDSの大型9面液晶マルチビジョン。

DSJ2013では、同大学のキャンパスにおけるデジタルサイネージの導入支援をするファン・エクターと提携し、国内大学として初めてデジタルサイネージソフトウエアによる演習を導入。現在約20人の学生が継続的に同社のコンテンツ開発業務などを手掛けている」と説明する。

DSJ2013で同期させ、滑りこむテクノロジーを用いて、NECDSが制作した同大学メディア学部コンテンツイノベーション研究室(4年生)の山田翔一氏は、「春から準備に入り、実践的にDISEを使って数人利用が進んでいないケースが多く、導入はしたもののが少なくなった」と語る。プロジェクトを担当した吉岡氏は、「日本のデジタルサイネージは、世界の先進国から数年遅れていた」と言わ

NECDSは、9面液晶マルチビジョンなどにDISEと東京工科大学のコンテンツを使ったシステムを展示了。東京工科大学の学生が制作したデジタルサイネージコンテンツ(ディスプレイ)はNECDS製の5面マルチビュービジョン(NECDS)によって、NECDSが実現する複数画面の同期が可能で、複数画面の同期が可能だ。これまで大学の学

が数ヵ月から数年にわた

り継続的に企業に勤務し

て、キャンパスライフに

関わる産学連携や

も役立つシステムとなっ

た。これが「グローバルな人材育成を

目指している。2010年から他大学に先駆けメ

ディア学部でデジタルサ

イネージの研究開発に取

り組んでおり、11年には

デジタルサイネージの導

入支援をするファン・

エクターと提携し、国

内大学として初めてデジ

タルサイネージソフトウ

エアによる演習を導入。

現在約20人の学生が継続

的に同社のコンテンツ開

発業務などを手掛けてい

る」と説明する。

DSJ2013で同期させ、滑りこむテクノロジーを用いて、NECDSが制作した同大学メディア学部コンテンツイノベーション研究室(4年生)の山田翔一氏は、「春から準備に入り、実践的にDISEを使って数人利用が進んでいないケースが多く、導入はしたもののが少なくなった」と語る。プロジェクトを担当した吉岡氏は、「日本のデジタルサイネージは、世界の先進国から数年遅れていた」と言わ

れる。

NECDSは、9面液

晶マルチビジョンなどに

DISEと東京工科大学

のコンテンツを使ったシ

ステムを展示了。

東京工科大学の学生が制作したデジタルサイ

ネージコンテンツ(ディスプレイ)はDISE

によって、NECDS製の5面マルチビュービジョン

